

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191513670		
法人名	社会福祉法人 純心福祉会		
事業所名	グループホーム 温もりの家(楓ユニット)		
所在地	北海道茅部郡森町字上台330-12		
自己評価作成日	令和1年11月20日	評価結果市町村受理日	令和2年1月31日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kajirokensaku.mhwh.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0191513670-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">http://www.kajirokensaku.mhwh.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0191513670-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和2年1月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1、医療連携について  
同敷地内に協力医療機関(森の里病院)があったが、財政難によりH31/5/10付けにて閉院となる。事前に地元の遠藤内科医院と契約交渉にて、正式にはH31/4/27より協力医療機関を変更・開始となっている。遠藤内科医院でも訪問看護を行っており、重複する事から、訪問看護あんずとはR1/5/10付けで契約を解消している。遠藤内科医院での対応としては、①24h365日対応の安心感。②大きな検査や入院設備はないが、ある程度の充実した医療行為(点滴、バルン管理、喀痰吸引、酸素吸入など)可能。③連絡ツールとしてキントンアプリを活用し医師へ直接状態を報告(日常の細かな報告が可能)できる。また、病院診療時間外も医師と連絡が付きやすいメリット。④日、祝以外毎日医師が訪問してくれるので、体調が悪い利用者の状態を相談しやすい環境。薬剤調整も2週間毎なので個々の細かな部分も対応が可能。⑤R1/5/1より看取りケアも開始となっており、状態が悪化した方も最期まで施設で看とる事が可能。⑥利用者、ご家族、職員も安心した環境で対応が可能。

2、食事面について  
有資格者の調理専属職員を配置している事で、グループホーム個々の利用者様に添った食事の献立や、栄養のバランスを考えた食事を提供している。

3、外出支援について  
当施設周辺には緑が多く散歩等の外出支援や、春には桜を観に出掛けたり、秋には紅葉を観に出掛けたりと四季の変化を楽しんで頂いている。

4、誕生日会について  
利用者様個々のニーズに合わせて、行ってみたい場所や食べたい物など入念にご本人様・ご家族様と話し合い、時間を気にせず戸外へ個別対応している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム温もりの家」はJR森駅より車で5分程の距離にあり、隣に同法人のグループホーム、近くには老人福祉施設や戸建てが並び、周囲は雑木林が広がる自然が豊かな地域に立地している。建物は木造平屋造りで、オープンキッチンを備えた居間兼食堂は開放感があり、大きな窓から陽がたっぷり入り清潔が保たれている。共有空間のインテリアは行事などの写真を貼るにとどめ、無駄を省いてスッキリと品よく纏めている。利用者は自宅からスイセンの苗を持って来て事業所の庭に移植して、以前からあったイチゴと共に職員と一緒に大切に育て、皆で花を愛でたり、イチゴの実を摘んで楽しんでいる。近隣には駒ヶ岳の勇姿を臨める公園や桜の名所が幾つもあり、この町に住む人にとって外せない景色が広がる、恰好の外出場所が多くある。桜の花、内浦湾の青い海と潮風等々、森町の特性を生活の中に徹底して取り入れ、穏やかな暮らしを支援している。この事業所の特筆すべき点は施設長と管理者を中心としたチームワークの良さである。日々の課題や不安は都度相談し、話し合っ解決している。看取りケアの経験を活かし全職員が意識統一を図り、更に団結力を強くしている。学習委員会が中心となり毎月テーマを決めて勉強会を開催したり、観察力を磨きヒヤリハットを多く見つけ傾向を分析して、事故予防や防止に積極的に取り組み効果を上げている。施設長と管理者、職員は自らの知識と経験、スキルを活かし利用者の穏やかな暮らしを支えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(楓ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	それぞれ個々に理解・共有し朝礼等で復唱している。日々のケアでも、優しい気持ちと笑顔を絶やさず事なく実践出来ている。	月曜日から金曜日までの朝礼で唱和して理念の共有を図り、ユニットごとと全職員が個人目標を設定している。管理者と全職員は「・・・優しい気持ちと笑顔を絶やさない、地域に根差した温もり溢れる施設を創ります。」の理念を実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭りや町内会のイベントに参加し、交流の機会を設けている。毎月開催される社協のふれあいサロンは、内容により入居者様に参加出来ない事が多いが、いつでも参加出来るよう毎月の日時・イベント内容を問い合わせ職員へ発信している。	職員は町内の夏祭りやイベントの手伝いを積極的に行い、地域の強力な担い手となっている。夏祭りには子供神輿や行列が立ち寄ったり、利用者も祭り見物に出かけて楽しい時を満喫している。また、民謡や日本舞踊、松前神楽、鬼うし太鼓、砂原権現太鼓などボランティアを積極的に受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎回、管理者が町内会の定例総会に出席しており施設や認知症の人に対する理解や支援方法を啓蒙している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月毎のペースで開催し、活動状況・入居者様の状態について報告と話し合いを行っている。意見やアドバイスを頂きサービス向上に努めている。ご家族様の参加が少なく残念であるが、議事録を郵送し対応している。入居者様数名が参加される事あり。	会議の意義を明記した案内状を送付している。会議は利用者、家族、行政、社協、町内会長、認知症友の会の方々が出席して、2か月ごとに開催している。スライドを活用して日々の暮らしぶりや活動、職員の状況、ヒヤリハットも報告をして、透明性のある会議を心がけており、表出した意見やアドバイスはサービスの向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や他の会議等で情報交換やサービスの取り組みについての報告を行っている。	管理者は介護保険の申請、更新手続きに直接出向いている。ケースワーカーの訪問時や行政が実施する養成講座や地域ケア会議などに積極的に出席して情報交換をし、顔見知りの関係を構築してしっかりと協力体制が築かれている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に職員間での勉強会を開催し、啓蒙活動をしている。職員全員が身体拘束に関して真剣に考え話し合い介助に取り組んでおり、入居者様へ身体拘束のない生活を提供出来るよう、日々努めている。	「身体拘束ZEROマニュアル」を独自に作成している。身体拘束廃止委員会と学習委員会が協力して、毎月勉強会を開催し、身体拘束による身体的、精神的弊害について徹底理解を図っている。日々職員同士が相談やチェックをしあっている。独自の自己点検シートを活用して全職員が心身共にベストな状態でケアに臨めるよう取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ほぼ毎月、虐待についての勉強会を開催し、職員ひとりひとりが日々の業務での虐待行為について考え、振り返る機会を設け防止に努めている。		

グループホーム 温もりの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(楓ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学びたい気持ちはあるが、中々機会を持っていないのが現状。関係者を交えた勉強会等、開催できれば・・と思っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ホーム長対応にて、入居前に口頭・書面で十分な説明を行い、理解・納得された上で契約を交わしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置したり、面会・来所時に直接お話を伺う等で、意見・要望を反映させている。	運営会議や家族参加の行事時、電話、意見箱などを活用して意見や苦情の拝聴に努めている。家族からメニュー表を見える所に大きく貼ってほしい、イベント時のテント数を増やして欲しいなど、様々な意見が表出され検討をして、出来る事から早速実施している。毎月発行する「温もり便り」は家族に好評である。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のユニット会議・全体会議で職員の意見を提案する機会を設け、反映出来るよう努めている。	管理者は日頃から話しやすい環境作りを心がけている。全体会議やユニット会議、年2回の人事考課を兼ねた個人面談など、各場面で意見や提案を聴き、運営に反映している。水道料金や光熱費の節約に取り組み効果を上げている。有給休暇を取得しやすい環境作りにも努め、特定処遇改善加算を活用して給料面にも配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の意見を取り入れ業務改善・労働時間の調整等行っている。職員ひとりひとりがやりがいと向上心を持って働けるよう、施設内外の研修会・勉強会にも参加出来る体勢が整っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	学習係を中心に、毎月勉強会や研修会を行っている。どんな事を学びたいか、業務をする上で知識や技術を高めたい事は何か等、アンケートを配布し職員の要望を反映させている。施設外研修も業務日程を調整し昨年よりは参加する機会が増えたと思う。今後はもっと数多くの研修に参加したい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	勉強会・研修会を通じて意見交換・情報共有を行い、サービスの質向上に努めている。		

グループホーム 温もりの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(楓ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時、ホーム長(ケアマネージャー)により本人様や御家族様が納得されるまで意向を聞き取りし、入所後はユニット全職員で入居者様の意見を聞き取ると共に、日々の介護・介助の中から感じ取ったりと、不安のない生活を提供出来るように職員同士協力をし努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時、ホーム長(ケアマネージャー)により、御家族様の意向を聞き取り、ユニット全職員がそれらを把握し、御家族様来所時には、入居者様の日々の生活行動等の説明を行う為、会話の場を作り、更に家族様の要望を聞き取っていけるよう心掛け努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	生活においての関係機関や御家族様・本人様より情報や要望等を伺い、職員間においてもそれらの情報の共有・対応の統一を図り、必要な支援を見極め、不安や心配なく、安心安全に生活できるような対応を努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の身体機能に併せたお手伝いをお願いしたり、会話等を常に心掛け、利用者様と接している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	希望と場合により都度、御家族様への電話連絡や支援、物資の補給をお願いする事によって大局的ではあるが、共に支える関係性を築けていると思われる。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様への来客や面会を積極的に受け入れ、繋がりが途切れない様支援している。又、時には利用者様の馴染みの場所へ同道し懐かしんで頂くと言った取り組みも行っている。	家族、親族、友人、かつての仕事仲間が日常的に訪れている。買い物や美容院、桜や駒ヶ岳など馴染みの関係や景色を大切にしたり一時帰宅もしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知度によって差異が生じない様、入居者様毎の個別レクに力を入れ、それを鑑賞又は参加する事により入居者様同士の繋がりを深めている。		

グループホーム 温もりの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(楓ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後であっても、用事等で来所される御家族様もおり、その際には入所時の想い出話などをされたり、現在どうされてるのか等の会話の場を作る様に努めている。サービス終了後であっても、御家族様の心配事・相談事に耳を傾け、支援サポート出来るように心掛けている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の趣味などを把握し、出来るだけ希望する生活が提供できるよう考えている。認知症の程度により意思疎通が難しい方へは担当職員が中心となり、本人の意向を尊重した暮らしが提供できるよう努めている。	契約時に看取りに関する意思確認を行い、日々の暮らしに寄り添いながら、さり気ない会話から表出した思いや意向を記録し、全職員で共有して一人ひとりの希望がかなう様に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、事前情報とそれまでのケアマネジメントをスタッフ間で周知、共有し把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態観察をスタッフ間で協議し結果を個人の状態把握表として作成、適宜更新し現状把握、活用に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3か月毎のモニタリングの作成とそれに併せたケアプランの見直しを実施している。又、日々のケアに際し、スタッフ間で常に情報を共有し状況に併せた支援を行っている。	担当職員が把握した日々の状態が検討され、アセスメントを作成しモニタリングを実施して、3か月ごとに実態に合った介護計画を作成している。体調や趣味の変化があった時は検討して、現状に即した介護計画に見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状況や行動を個人毎に記録し、スタッフ間で共有する事によって支援の実践や今後の計画に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の状況に応じて可能な限りのサービス展開を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会や地域振興のイベント等の手伝いや活動に積極的に参加している。参加出来る入居者様が限られてしまっているのが現状であり、一人でも多くの方に参加出来る機会をつくる事が課題。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	町内の遠藤内科医院と専属契約を結び、ほぼ毎日往診をして頂いていると共に、急変時にも連携をとり対応している。	契約時に本人と家族に意向を確認して決めており、全員が協力医をかかりつけ医としている。毎日の往診に加え24時間オンコール体制が整えられ、安心して適切な医療が受けられる様支援している。	

グループホーム 温もりの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(楓ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	町内の遠藤内科医院と専属契約を結び、ほぼ毎日往診をして頂いていると共に、急変時にも連携をとり対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ホーム長(ケアマネージャー)を中心に、病院の医師、看護師・スタッフとの信頼関係を築き、何時でも入居者様の現在の状態等を互いに把握している。入居者様に何かあっても直ぐに対応して頂ける様に常日頃から小さな事でも話し合い出来る関係作りをこのまま継続していけるように努める。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在、協力医療機関の遠藤内科の協力により、看取りを実施可能となり、入所時や状態変化時に、御家族との面談を実施し、ホーム長から施設で行える対応を説明し、医師からも今後の方向性をご家族へ説明し、今後の方向性を説明している。	契約時に事業所が出来得る最善の方法を旨とした、看取りに関する指針を説明している。看取りケアマニュアルを作成し、状態の変化に応じ家族、医師、事業所で話し合い、看取り介護計画を作成して、同意を得て行っている。今年度は現在までに複数回の看取りを経験している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的研修を行い、急変時の対応にそなえている。しかし、実際に対応すると困惑する事もある為、マニュアルを作成し、ステーションに緊急連絡や、対応の仕方を掲示し、いざという時に備えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	所轄の消防署とも連携し、定期的に避難訓練等を実施している。	消防計画を基に年2回、町内会の防災担当者や消防署の協力を得て避難訓練を実施している。職員の中に消防団員もおり、地域との協力体制を築きつつある。停電時の対応など災害に関するマニュアルを整備している。食料の備蓄を始め、ガスコンロ、ランタンなどを用意しているが、今後は発電機も加える予定である。	運営推進会議などで避難訓練への参加を継続的に呼びかけて、地域住民の協力を得る取り組みを続けて行うこと、また、災害時や緊急時などケア別の対応について、全職員での話し合いに期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	それぞれの入居者様の性格・個性・好み等を日々の日常の中から、見つけ出し、又、理解した上で声の掛けかたや、支援の内容等を工夫して提供を心掛けている。	呼び名は苗字に「さん」付けたり、本人の希望で「旧姓」に決めている。礼節を重んじた介護に徹し、トイレや入浴など羞恥心を伴うケアは同性介助としている。言葉遣いは本人の生活歴や性格などに配慮した対応にしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛けは決定事項ではなく、疑問文にし問いかける事を心掛け、入居者様に自己決定して頂ける様にしているが、入居者様によって自己決定できない方もいる為、声掛けの工夫を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望にそった支援を心掛けているが、自分からこうしたいという方が少なく、職員判断が多くなってしまっている。レクの時間など、個々の活動や覚醒状況により、提供出来る様今後の課題としていく。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節の変わり目時に、各担当職員が衣類の確認をし不足している物などは御家族様に依頼をし、各入居者様にあった服装を提供出来るように支援している。		

グループホーム 温もりの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(楓ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	出来るかぎり、自力摂取を促すために、食器を軽したり・スプーンやフォークに変更したり・滑り止めマットを使用したりと、スタッフ間で話し合いながら、力を生かせる様、工夫している。	献立は法人の栄養士が作成し、調理は専門のスタッフがやっている。利用者が食事作りを手伝うことはないが、おしぼりたたみは行っている。ドライブのついでにホテルのランチビュッフェを利用したり、名物だんごを食し、花見や夏祭りの時は、屋台で好きなものを買って食べるのが楽しみとなっている。出張のすし屋も利用している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日・毎食の食事摂取量・水分摂取量等を表に記入し、どの職員が見ても把握できるようにしている。又、食事・水分摂取量の増減時には直ぐに気付けるよう、対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、その人の機能に併せた支援を実施している。口腔内の状態や本人の訴えなどから、都度、歯科往診の対応を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	職員間で話し合い入居者様各位のADLIに即した支援を工夫・実施しているが、中々自立できない事が多く今後の課題である。	排泄の自立を大切に考えており、現在日中は5名が自立しているが、夜はポータブルトイレを利用したり、本人の希望でおむつ使用して睡眠を優先している。また、声かけや誘導することで排泄の自立に向けた取り組みをしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者様それぞれの周期や能力に合わせた働き掛けを行っている。かかりつけ医に相談しながら、下剤に頼らずに自力排便できるよう取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望のある入居者様はほとんどおらず、スタッフ判断で入浴順番を決めている。しかし、気の合う方同士などと入浴を一緒にする等の工夫はしており、個々に添った支援を今後の課題としたい。	週2回の入浴を実施している。午前午後のくりはなく、気の合う同士や馴染みの方と一緒に入っている。介護度の高い利用者はシャワー浴やかけ湯で対応している。むくみや皮膚状態の悪い時は随時足浴をして、マッサージをしたり清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中でも、傾眠傾向の方は居室にて臥床し休んでいただいたり、状況により休養の時間をもうけ、対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬変更時には、連絡ノートを活用し、職員が把握できるように努めており、症状の変化時にも、薬の効果なのかと、会議の議題とし、話し合い、医師との連携から、薬の調整に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入所時に生活歴・趣味等の情報を本人、もしくはご家族様より提供していただき、レクリエーションに取り入れたり、行事への参加などで、支援している。		

グループホーム 温もりの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(楓ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出レク等を定期的に行い、外出の機会を作っている。個人に対しても、職員人数にもよるが、暖かい日などは、個別で施設外へ散歩し、花などを観察し楽しんで頂いている。	暖かい季節は日常的に近所を散歩し、ポニーとの触れ合いを楽しみ、車椅子を利用している方は公園でゆったりと散策している。年間行事計画を立て、花見や紅葉狩りなど遠出のドライブをし、外出の機会を多く確保してストレス解消や気分転換に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が可能な方は、本人に管理して頂いているが、高額の場合は、事務所にて管理している。施設前に自販機設置しており、本人の希望により、購入をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	認知面により、自分の状態を伝えられない方は、御家族様面会時に都度、状態報告をし、広報紙によって今月の出来事などを報告している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月、共同生活空間の装飾を変え、四季を感じて頂ける様にしており、室温も夏場は窓を開け調整し、冬場は暖房機器で調整をし、入居者様に快適な生活を提供出来る様工夫している。	居間兼食堂は大きな窓から陽がたっぷりと入り、光はカーテンを利用して程よく調節している。暖かい季節は窓を開けて自然の風を取り入れ、温度と湿度を適正に管理し、冬は加湿器や暖房機器を利用して年間を通じて快適な生活環境を作っている。事業所内の装飾も無駄を省き、季節感や生活感を醸し出す物にとどめている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	客観的ではあるが、気の合いそうな方と、席を近づけたりしている。自ら話をするかたが少ない為、身体機能面が近い方同士を同じテーブルにし、レク等で同じ作業を出来るよう、共同生活空間の工夫行っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設に設置しているタンスや床頭台を使用しているが、混乱している入居者様は現在いない。その方の状態により、混乱を招くようならばすぐに対応出来る様、職員間で意識して状態観察している。	各居室にはクローゼットやタンス・床頭台・介護用ベッド・テレビ・冷蔵庫などの生活に必要な家具が備え付けられている。また、家族の写真や思い出の品々を飾って、一人ひとり個性的な部屋づくりをして、居心地よく暮らせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の身体機能に応じて、出来るかぎりの自立した支援を提供している。しかし事故のリスクも高くなる為、ご家族様と相談などを密にし行うよう工夫している。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191513670		
法人名	社会福祉法人 純心福祉会		
事業所名	グループホーム 温もりの家(銀杏ユニット)		
所在地	北海道茅部郡森町上台330-12		
自己評価作成日	令和1年11月20日	評価結果市町村受理日	令和2年1月31日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kajirokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0191513670-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">http://www.kajirokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0191513670-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和2年1月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>1、医療連携について 同敷地内に協力医療機関(森の里病院)があったが、財政難によりH31/5/10付けにて閉院となる。事前に地元の遠藤内科医院と契約交渉にて、正式にはH31/4/27より協力医療機関を変更・開始となっている。遠藤内科医院でも訪問看護を行っており、重複する事から、訪問看護あんずとはR1/5/10付けで契約を解消している。遠藤内科医院での対応としては、①24h365日対応の安心感。②大きな検査や入院設備はないが、ある程度の充実した医療行為(点滴、バルン管理、喀痰吸引、酸素吸入など)可能。③連絡ツールとしてキントニアプリを活用し医師へ直接状態を報告(日常の細かな報告が可能)できる。また、病院診療時間外も医師と連絡が付きやすいメリット。④日、祝以外毎日医師が訪問してくれるので、体調が悪い利用者の状態を相談しやすい環境。薬剤調整も2週間毎なので個々の細かな部分も対応が可能。⑤R1/5/1より看取りケアも開始となっており、状態が悪化した方も最期まで施設で看とる事が可能。⑥利用者、ご家族、職員も安心した環境で対応が可能。</p> <p>2、食事面について 有資格者の調理専属職員を配置している事で、グループホーム個々の利用者様に添った食事の献立や、栄養のバランスを考えた食事を提供している。</p> <p>3、外出支援について 当施設周辺には緑が多く散歩等の外出支援や、春には桜を観に出掛けたり、秋には紅葉を観に出掛けたりと四季の変化を楽しんで頂いている。</p> <p>4、誕生日会について 利用者様個々のニーズに合わせて、行ってみたい場所や食べたい物など入念にご本人様・ご家族様と話し合い、時間を気にせず戸外へ個別対応している。</p>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(銀杏ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の朝礼で理念を復唱してきた事で、全職員が理念を意識し共有できている。意義を踏まえた理念になっており管理者および職員は理念を共有した上で、ユニット目標を掲げ実践につなげている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の定期総会に参加し交流を図り、パークゴルフ大会や盆踊りなど行事のお手伝いに協力したり、運営推進会議へ参加の呼びかけを行い夏祭りや避難訓練等のお手伝いや協力を仰ぎ交流を深めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご家族様の面会時には近況報告とともに認知症について理解して頂けるようお話しさせていただいている。また面会に中々、来られない御家族様には担当職員より定期的に近況報告のお手紙を郵送し認知症の人の理解や支援の方法を伝えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回定期的に開催し、運営、利用者、職員の状況報告、スライドを使用し活動報告を行い、行政、社協、町内会、家族、認知症友の会、利用者が参加され意見交換をしサービスの向上に活かせるよう努めている。また、議事録は家族へ郵送し報告している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議や他の会議等で情報交換や取り組み状況等の報告を行っている。また、研修や親睦会等の参加要請には出来る限り参加し協力関係を築くよう取り組んでいる。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を中心に身体拘束についての研修に積極的に参加し、身体拘束をしないケアについて学び施設内での勉強会に繋げ、身体拘束について考え情報を共有し、身体拘束のない利用者の自由な暮らしを提供している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束委員会を中心に虐待についての研修に積極的に参加し、虐待をしないケアについて学び施設内での勉強会に繋げ、虐待について考え情報を共有している。定期的に勉強会を開催し虐待について見直す機会を作り防止に努めている。		

グループホーム 温もりの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(銀杏ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	自立支援事業や成年後見制度に関してはあまり学ぶ機会がないが、今後定期的に学ぶ機会をもち活用できるようにしていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ホーム長(ケアマネージャー)により、入居前に口頭・書面にて十分な説明を行い、理解・納得された上で契約を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設けたり、面会時にこちらから要望を聞くような体勢を取っている。また、担当職員が積極的にご家族様との関係を密にすることで信頼関係が持てるように努め意見や要望を伝えやすい状況を作るように取り組んでいる。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のユニット会議・全体会議で職員の意見や提案する機会を設け反映できるよう努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の意見を取り入れた業務改善や労働時間の調整等、働きやすい職場環境作りに努めているが、経営側のいざこざがありモチベーションも下がり、やりがいなど、各自が向上心を持って働けている状況にはないように思われる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	学習係を中心に、毎月勉強会・研修会を開催している。学びたい事、興味がある事、業務に活かしたい事など、職員からの意見や要望を反映させている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	勉強会・研修会・親睦会を通じて意見交換・情報交換を行い、サービスの質の向上に努めている。		

グループホーム 温もりの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(银杏ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時にホーム長(ケアマネージャー)により、本人やご家族の意向を聞き取り職員へ伝えている。入所後も入居者様個人の意見を日々の介護の中から聞いたり感じ取ったりと不安のない生活を提供できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始前にご家族様へも不安なことやご本人様のことなど聞き取りを行い、安心にて生活していけるよう職員間で情報の共有を行い、ご家族様とも良好な関係を築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	関係機関やご家族様・本人より情報収集を行い、職員間においても情報の共有・対応の統一を図り必要な支援を見極め、不安や心配なく安心して生活できるような対応を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々のケアの中での何気ない会話やレクなどで、楽しい時間を一緒に過ごしており、入居者様の状態にもよるが、出来るだけ多くの方に、ウエスたたみや洗濯物たたみなどのお手伝いをお願いし職員と一緒に頑張って頂いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に近況報告を行ったり、遠方のご家族様へはお便りを郵送し現状を伝えている。必要品の購入依頼などで電話した際にもなるべく本人の様子が分かるよう些細な出来事でもお伝えし、本人とご家族様の関係や絆を大切にしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	思い出の場所や大切な方との関係が途切れる事がないよう、レクや行事、お誕生日会など行きたい場所を事前にお聞きしたり、希望に添えるよう配慮している。また、お誕生日会を大切な日と考え、担当職員がご自宅や思い出の地、馴染みの人がいる場へお連れするなど支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の認知度により関わり合いの場は違うが、洗濯たたみなど出来る方には衣類、難しい方にはタオル、動くことのできない方には作業している姿を見て雰囲気を感じて頂き状態に合わせ、皆様が一緒に取り組める空間を、提供できるよう努めている。		

グループホーム 温もりの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(銀杏ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要があれば関りをもち、ご家族様やご本人様へフォローや、相談できるように努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の訴えを、担当職員が中心となり、本人の意思を尊重出来るように考え、職員間で情報を共有し統一した対応をとるように取り組んでいる。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前、入居後もその方の生活や馴染みの暮らしの把握に努め、ご家族様とも密に連携を図り把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各利用者様の日々の生活支援の中で、常に状態観察(状態把握表を作成)を行い、その方の現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の状態観察を常に行い状況に応じて家族との連家や相談、本人との話し合いを行っています。また、モニタリングを活用し3カ月毎にスタッフで精査・確認しより良い介護計画を作成・実践するよう努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録の他に職員間での気付きノートを設置し、情報や実践結果の共有を図り、必要に応じて計画の見直しやより現状に即した実践を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	担当職員を中心に本人や家族との信頼関係を築き、日々の生活支援の中で生まれるニーズ、気づきを元に柔軟な支援やサービスに取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の町内会様より声を頂き、盆踊り大会の際の、餅つき用のお餅の製作等に参加させていただいている。但し参加できる方が限られてしまうのが現状である。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	町内医療機関との契約をかわし定期訪問診療にほぼ毎日医師が来所されている。このことにより入居者様は元より職員も不安の緩和となっている。今後もかかりつけ医と当施設の関係を築きながら適切な医療をうけられるように支援していく。		

グループホーム 温もりの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(銀杏ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	1人1人の身体状況やその日の体調を把握し、訪問看護師や医師へ伝えることができている。また、適切な受診や看護を受けられるような支援も出来ていると思う。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、ホーム長(ケアマネージャー)が中心となり、情報提供書の提出。また、かかりつけ医からの紹介状により利用者が安心して治療できるように病院関係者に情報を伝えスムーズに対応して頂けるよう病院関係者との関係作りを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	かかりつけ医に入居者様の状態を定期的に報告、往診に来て頂いており、異常時には都度報告し今後の対応について早期に話し合いを行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習は年2回開催を行い、職員が不安なく緊急時に備えられるような体勢を取っている。避難訓練等も定期的に行い実践力を身に付けるような取り組みを行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災想定による訓練を実施しており、地域との協力体制も築いている。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の性格を理解し、声の掛け方や、支援内容などを個人により、工夫し提供している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定を促す声掛けに努めている。お茶会では飲み物メニュー表を作成し飲みたいものを指してもらったり、自己決定が難しい方へは小さな頷きや表情を見て読み取るようにし支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個別ケアの取り組みを行っている。ユニット会議ではお一人お一人についての課題の検討を行い、希望に沿ったその人らしい生活の支援が出来るように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服は本人や家族様にお好みの物をお聞きし、以前着ていた物や脱着の楽な物などを持参していただき、その方に合った服装を提供できるよう支援している。		

グループホーム 温もりの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(銀杏ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	現在、準備や片付けを行うことが出来る入居者様がほとんどおらず、おやつレクや他のお手伝いをお願いしている。食事に関しては毎日異なるメニューをお出しし、食事が楽しみになるよう工夫している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量等、表に記入し、職員把握できるようにし、水分・食事摂取量減少時にすぐ気付けるよう、対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個人で出来る限りの事は行って頂けるよう、実施している。口腔内の状態により都度、歯科往診や往診の対応をしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツの使用を減らすのは容易ではないが、排泄パターンや週間の把握には務めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘に関し職員全体が問題ととらえ、協力医療機関と連携し排便状況や便の状態などを密に報告し合い自然な排便が出来るよう支援している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	現在週2日と決まっており、職員の人員や様々な要因があり、曜日や時間を決めざるを得ない状況にあるが、時間や順番は希望がある場合は対応している。入浴拒否時は無理強いしない。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	臀部の状態や、体の傾き、本人の訴えにより、日中にも、休息の場を設けるよう、都度職員間で、入居者様の状態を話し合い、提供している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	提携している病院と密に報告、連絡、相談を行い入居者様が服用されているお薬に関しても一人一人が把握しており変化を見逃さないよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の状態や趣味、嗜好などを入所から日々のケアの中から見つけ出し張り合いのある生活ができるよう支援している。またご家族様へご本人様の事をお伺いしたり日々のケアに活かしている。		

グループホーム 温もりの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(銀杏ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出行事やレク、受診など職員が考え全員が戸外に出掛けられるような工夫をしている。受診やご家族様との外出なども担当職員や他職員と連携しスムーズに出かけられる様支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を使える方は限られていますが、使用したい時に使用できるよう支援している。必要であれば所持して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	都度、対応できていると思われる。個人によって、ご家族とのやりとりにより、不穏になる方が居るので、個人によって職員対応にてご家族と連絡を取り合っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとで、壁の装飾をレク委員が中心となり変えていき、四季を感じて頂けるようにしており、入居者様が居心地よく過ごされるよう工夫をしている。また、廊下の壁に行事等の写真を貼り少しでも思い出したり、職員とのコミュニケーションの話の種にし楽しく会話できるようレイアウトも工夫します。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールでは思い思いに過ごして頂いている。お一人が好きなお一人でおられ、気の合う方はお話しをされています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前にご家族様やご本人様へ居室を見て頂いている。自宅や施設に居た頃の衣類や飾り物、思い出の品どを持ち込まれ、ご本人様が快適に居心地よく過ごせるよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	回廊型の建物であり、歩ける方は散歩をし車椅子の方でも自操しやすく自立した生活が送れるような工夫がされている。		

## 目標達成計画

事業所名 グループホーム温もりの家

作成日：令和 2年 1月 31日

市町村受理日：令和 2年 1月 31日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	①規定の年2回夜間想定での避難訓練を所轄の消防署立ち会いにて、関連施設もりの家・町内会(防災部)と合同で実践できた。 ②他災害対策として地震・水害等の具体的な災害対策は不十分と感じられる。	①年2回の避難訓練と毎月自主訓練継続 ②地震・水害等の災害時対策マニュアル検討・作成及び訓練の実施	①今年度も規定の年2回の避難訓練及び、救命講習、施設独自の自主訓練は実践できていた。次年度も町内会(防災部)、関連施設(もりの家)、又は近隣住民にも呼び掛けし一体的な訓練の実施に努める。 ②地震に関して昨年メディアでもこの30年以内に日本海側を中心にM7～9クラスの大きな地震が予測されるとの見解。 自然災害に関して昨今温暖化が進み、気象も予測不可能な現状が続いており、今後何が起きるか分からない状況。 【まとめ】 地震・水害など地域の特性を考慮した施設毎の対策や、地域全体での取り組みを踏まえ、繰り返し話し合いの場を設け、詳細なマニュアル(ケア別の対応、避難ルート・場所、備蓄品など)を作成し、定期的に訓練を実施する。	1年
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。